

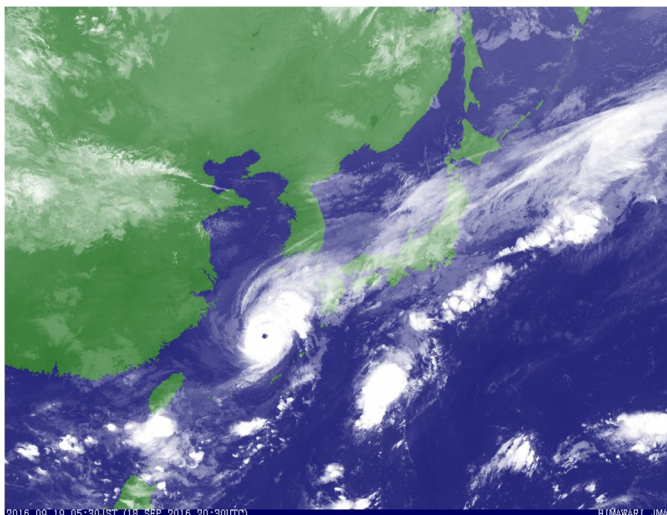
「台風 16 号の模型 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

9月中旬～下旬に列島に接近・上陸した台風16号は、典型的な秋の台風径路をとり、しかも非常に強い勢力で目もはっきりしていた。実際に単元の学習中に発達・移動した台風ということも、教材としての価値が大きい理由である。

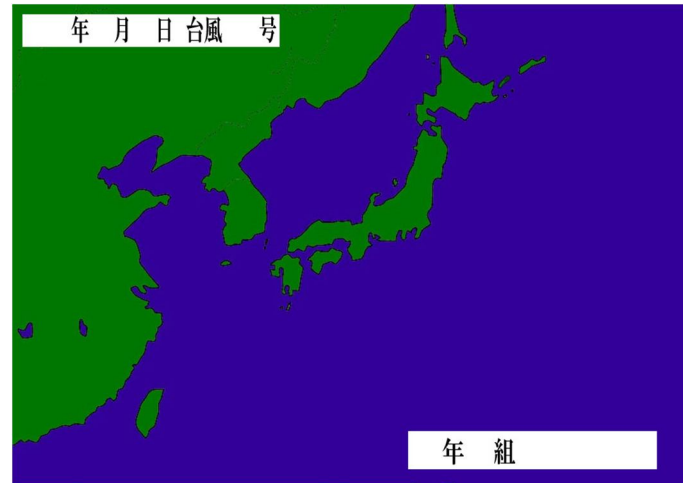


昨年度に5年生の理科を担当した時も、「台風の模型」を作らせた。この活動は、「雲画像(衛星画像)をよく観察する」「台風の発達・移動・衰退の様子を実感する」「台風の構造を立体的にとらえる」「関わり合って台風のことを学ぶ」といったねらいがあり、子どもたちも非常に意欲的に取り組む課題の一つだ。



「台風 16 号の衛星画像」最も勢力が強かった時期

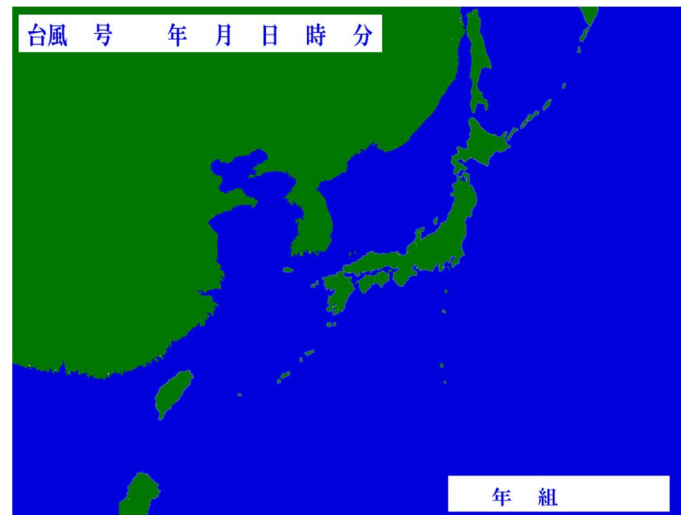
使うものは、台風の衛星画像、台紙(極東地域の海岸線地図)、板目紙、脱脂綿、のり、楊枝・・・そんなところである。



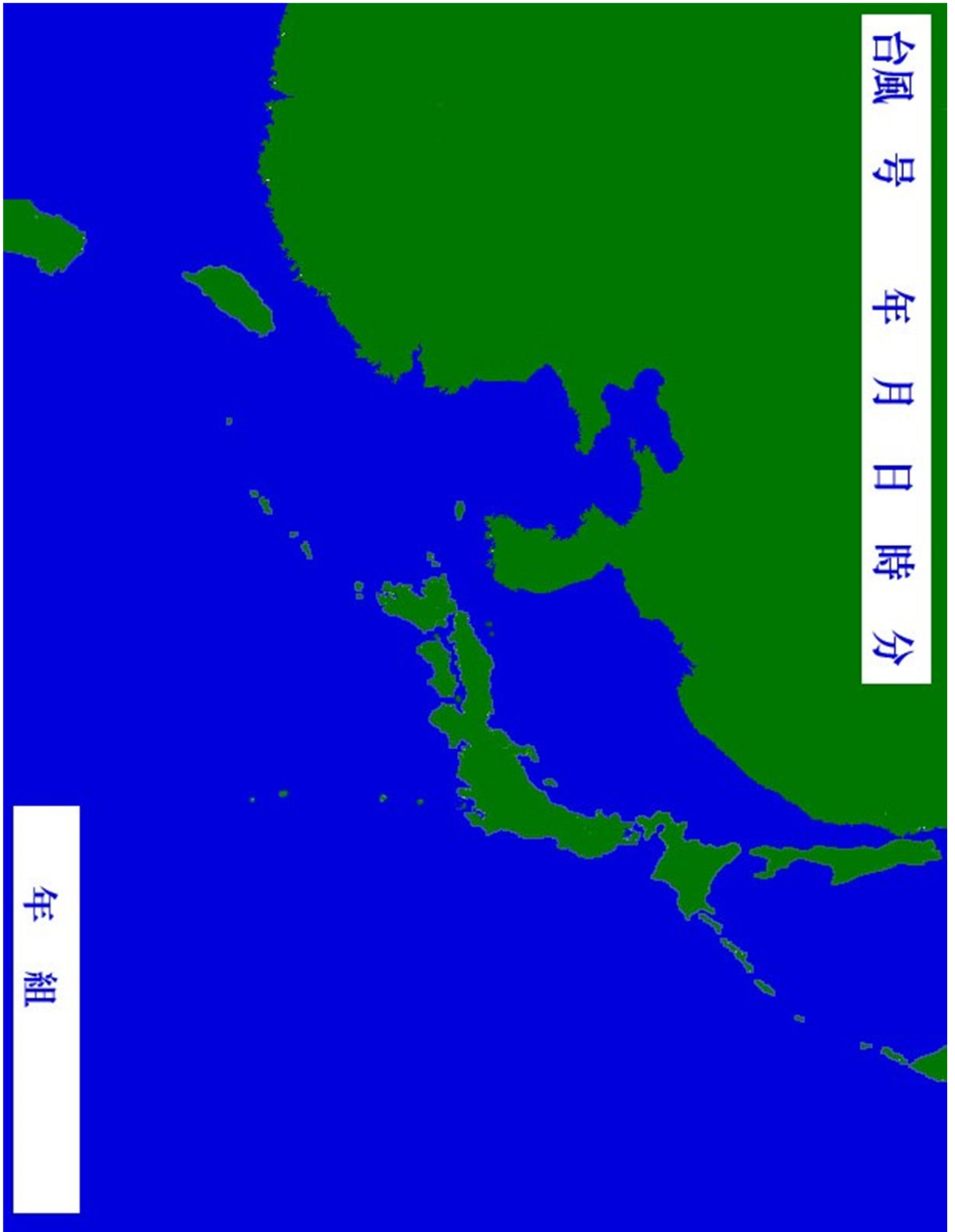
上図が昨年度使った、改良前の台紙(地図)である。台湾～北海道をカバーしているが、肝心の台風の好発生地域(フィリピンの東海上)が抜けている。

台風の学習で大切なことは、台風本体の風雨だけでなく、発生してから衰退するまでのコース、それに台風がまだ列島から遠い場所にある時にも、台風から延びた雨雲(主として乱層雲)の影響があること...これらを理解することである。

私は昨年度の地図を改良し、気象庁の衛星画像(日本域)の範囲と完全に同じものを作成した。これは簡単なようで非常に難しかった。しかし効果はあった。



「改良型台風模型台紙」2ページ目に拡大画像あり



「改良型台風模型台紙」 / C.Tanaka

A4 用紙カラー印刷推奨

気象庁の衛星画像（日本域）と同じ範囲をカバー